



弘前市出身・仙台市、東北  
大学大学院理学研究科教授



9 千葉 柁司

星からの贈り物

木々の緑が日ごとに濃くなっている。新緑の時期は、薄緑や柔らかな緑などこれほどたくさんの緑色があるのかと驚いてしまうが、暖かい日の光で一気に葉が増え、最初のころの色の違いがわからなくなるほど緑が濃くなってしまふ。

桜もとっくに終わり次にリンゴの白い花が咲いてくる。子供のころはこの時期が来るのをちょっぴり楽しみにしていた。家の畑でリンゴの花に受粉をする作業が始まるからだ。縦長の筒に花粉を入れ耳かきのような先に綿がついている棒を差し、それを腰にひもで巻いてもらう。なんだか、拳銃をつけたガンマンの気分になって高揚してくる。はしごをかけて木に登り、花の先にこの耳かきのような棒を使ってちょんちょんと花粉を付けるのだ。これが楽しくて子供の遊び心を十分満たしてくれる。お昼になるとお弁当の時間だ。小屋の戸をいっぱい開けて、リンゴの花を眺めながら穏やかな暖かい陽気の中で弁当箱を開ける。特別にごちそうが入っているわけでもなく、昨夜や今朝のおかずの残りが入っていたりするのだが、うまい空気の中ではとにかくおいしかった。両親のアルミ弁当がやたら大きく見え、おいしそうなご飯がぎっしりと入っていた。どこかで木を燃やしているのか、その煙のいいにおいが辺りを包む。日の光がとてもまぶしい。

この命の光を注ぐ太陽がなかったら、もちろんリンゴもほかの動植物も生きていくことができない。また、太陽がちょうどいい距離にあるおかげで、地球は豊富な水に恵まれている。

さらに、私たちの体や植物など地上にある物質のほとんどす

べては、太陽のような自分で光る星（恒星）の中で作られたのである。137億年前にビッグバンでできた宇宙には、水素やヘリウムなどの軽い限られた元素しかなかった。その後数10億年たってからガスが重力で固まって星ができ、その中で核融合反応が起こって炭素や酸素、窒素といった重い元素ができた。星はその後爆発を経て死に、これらの元素を含んだガスを宇宙空間にまき散らす。さらにそのガスから新しい星が生まれサイクルを繰り返している間に、重い元素から固い地球のような惑星が形成され、さらに重い元素から動植物や人類などの生命が生まれた。すなわち、私たちの体を作る元素は恒星のような星の中で生まれ、星がなかったら私たちの体を作ることができなかった。私たちはまさに星の子なのである。

100億年以上の長い宇宙の歴史の中で、星の形成と死を繰り返したおかげで、地上の豊かな生命はぐくまれている。



挿絵・佐藤 元昭

き、日当たりを好みま  
す。種は三粒ずつ直まき  
し、最終的に株間十五  
葉が黄色くなり始め  
ます。やり過ぎないようにし

葉が黄色くなり始めたら収穫を

鐘太郎（二十五年までの  
販売所は「黒石横町 鳴海  
鉄三郎」であるが同じ家で  
ある」と記されている。こ  
の鐘太郎の五男に詩人の鳴

